

第22回

三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県

第 22 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から令和 3 年度の第 21 回表彰までの受賞者数は 293 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 22 回目になる今回は、令和 4 年 8 月 8 日から 10 月 31 日まで募集を行ったところ、39 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 38 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文化大賞	7	6
文化功労賞	13	13
文化奨励賞	15	15
文化新人賞	4	4
計	39	38

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 22 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 3 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 3 名は、いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけが

たいものであったが、美術、メディア芸術（映画）分野（手描き映画看板）の紀平昌伸さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、文学分野（俳句）の神田ひろみさん、美術分野（陶芸）の小牧昭夫さん、美術分野（日本画）の津田親重さんの3名の選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って10名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、生活文化分野（書道）の伊藤潤一さん、美術分野（現代アート）の亀山トリエンナーレ実行委員会、演劇・舞踊分野（フラメンコ舞踊）の佐々木典子さん、写真分野の城島正子さんの4名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、全員が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたことから、選考の結果、美術分野（絵画）の大西佐奈さん、写真分野の橋本英幸さん、文学分野（同人雑誌の発行）の麦畑羊一（本名：伊丹健秀）さん、写真分野の梁井英雄さんの4名全員を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、文学分野2名、美術分野（うちメディア芸術（映画）分野との重複1名を含む）5名、演劇・舞踊分野1名、写真分野3名、生活文化分野1名であった。

文学分野、美術分野、音楽分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、伝統芸能分野等の推薦が少なかったことから、文化賞の広報活動を推進し、認知度を上げ、今後、幅広い分野からの推薦をいただけることを期待する。

なお、今回は大賞から奨励賞まではバランス良く推薦があったものの、新人賞の推薦が少ない状況であった。推薦件数も昨年度より6件少ない39件であったことから、第23回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県文化賞が三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上の礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第22回三重県文化賞選考委員会

(受賞者名は各賞五十音順)

第22回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕		
紀平 昌伸 (83歳)	津市	美術、メディア芸術(映画)分野 (手描き映画看板)
〔文化功労賞〕		
神田 ひろみ (79歳)	津市	文学分野(俳句)
小牧 昭夫 (84歳)	名張市	美術分野(陶芸)
津田 親重 (70歳)	名張市	美術分野(日本画)
〔文化奨励賞〕		
伊藤 潤一 (36歳)	松阪市	生活文化分野(書道)
亀山トリエンナーレ実行委員会	亀山市	美術分野(現代アート)
佐々木 典子	津市	演劇・舞踊分野(フラメンコ舞踊)
城島 正子 (75歳)	伊賀市	写真分野
〔文化新人賞〕		
大西 佐奈 (40歳)	大台町	美術分野(絵画)
橋本 英幸 (43歳)	松阪市	写真分野
麦畑 羊一 (80歳)	四日市市	文学分野(同人雑誌の発行)
(本名:伊丹 健秀)		
梁井 英雄 (73歳)	鈴鹿市	写真分野

(各賞五十音順、年齢は令和5年5月28日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：美術・メディア芸術（手描き映画看板）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>きひら まきのぶ 紀平 昌伸 (83 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、昭和 30 年に津市大門劇場に入社し、映画看板の制作を開始した。昭和 38 年にはキヒラ工房を設立して独立し、津市内映画館 10 館中 3 館を任され、2 日に 1 枚のペースで映画看板を描いた。その後、映画看板の需要はなくなったものの、百貨店や店舗の広告看板の仕事を続け、エアブラシを用いて大型懸垂幕へ人物を描く工法を確立させたほか、1 級技能士（広告面構成仕上げ）の取得、全国技能グランプリでの銅賞受賞など、技術の向上に励んだ。</p> <p>最後に映画看板製作を行ってから 46 年後の平成 17 年、全国 1 級技能士優秀作品展に出展したことをきっかけに再び映画看板を描くようになり、メディア出演や各種イベントへの展示、個展の開催などの活動により、屋外広告業の認知度向上に取り組んでいる。</p> <p>これらの活動により平成 16 年に卓越した技能者（現代の名工）、平成 19 年に黄綬褒章、平成 22 年に津市文化功労賞など数多くの功績を収めた。</p> <p>さらには、三重県屋外広告美術協同組合の理事、一般社団法人三重県技能士会の理事、三重県職業能力開発協会の技能検定委員などを長きにわたって務め、後進の育成・指導に尽力した。また、地元のイベントや小学校で似顔絵教室を開催し、大人から子どもまで幅広い年代へ絵を描く楽しさを教えている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：文学（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かんだ 神田 ひろみ (79 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、昭和 51 年に俳句結社「寒雷」に入会し、加藤楸邨に師事した。以後、俳人として創作発表及び評論の分野で 47 年にわたって全国レベルの活動を行っており、句集の刊行、論考の執筆などを精力的に続けている。</p> <p>平成 23 年に現代俳句評論賞、平成 27 年に寒雷賞、平成 29 年に現代俳句協会年度作品賞を受賞するなど、数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>平成 16 年から令和元年までの長きにわたって、県内の小学校で俳句授業を行い、次世代を担う県内の子どもたちへ俳句文化の本質に触れる機会を提供した。</p> <p>また、三重県生涯学習センター、三重県短詩型文学協会、各公民館などでも講師を務め、結社賞の受賞者を輩出するなど、後進の育成・指導に取り組んでいる。</p> <p>さらに、俳句結社「暖響」（旧「寒雷」）での暖響賞選考委員、東海地区現代俳句協会、三重県俳句協会での理事及び大会選者を務めたほか、四日市郷土作家研究紀要「泗楽」での論考執筆や文芸同人誌「P.」での作品発表など地元誌での活動を定期的に行い、地域の俳句文化の発展に貢献している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：美術（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>こまき あきお 小牧 昭夫 (84 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、平成 12 年、名張市に ZERO-T 工房を設立し、以後 23 年間、伊賀陶芸会展など各地の展覧会への出品や個展開催などの陶芸作家活動を続け、オリジナルな作品を求め続けている。</p> <p>平成 25 年に「新美工芸会展」大賞、平成 27 年に「京展」楠部賞、平成 30 年に「有田国際陶磁展」朝日新聞社賞を受賞するなど数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>「三重のやきもの」展、市展「いが」の審査員、伊賀市文化会館主催「まるごと美術館」の運営委員及び広報委員を務めたほか、名張市にて「NH 展」の立ち上げに参加し、陶芸、彫刻、ガラス及び絵の展覧会を毎年開催している。4 年前からは「NH 展」の代表にも就任し、地元の陶芸文化の発展に尽力している。</p> <p>平成 12 年より約 5 年間、名張市桔梗が丘の「陶香クラブ」に参加し、作陶方法や表現に関するディスカッションや指導を行った。また、小学生への作陶指導を行ったほか、伊賀市矢持地区市民センター主催「風と土のかたち展」において表現と作陶の相関性について講義するなど、後進の育成・指導を行っている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：美術（日本画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>つ だ ちかしげ 津田 親重 (70 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、昭和 46 年より日本画家としての活動を始め、日春展への入選が 12 回（うち奨励賞 1 回）、日展への入選が 14 回（うち東海中日賞 1 回）など数多くの優れた功績を収め、平成 21 年から 25 年までの間、日展会友を務めた。</p> <p>昭和 58 年から令和 2 年まで絵画教室彩の会を主宰するなど、日本画の指導者として後進の育成に取り組んでいる。</p> <p>また、みえ県展、松阪市展、名張市展、津市展、伊勢市展と三重県各地の審査員や運営委員を幅広く歴任し、地元の展覧会の発展に貢献し続けている。</p> <p>さらには、名張市の公共施設などに日春展・日展の入選作品の寄贈を行い、こうした功績が認められ、平成 29 年には三銀ふるさと三重文化賞を受賞した。</p> <p>近年では、伊賀市の入交家住宅での作品展示や日本画実演、名張市の藤堂家邸での小・中学生への絵画指導など、地域の文化財施設を利活用する企画に取り組んでいる。また、公益財団法人伊賀市文化都市協会主催のコンサートにて、フルート及びピアノの演奏と日本画のコラボレーションを行うなど、積極的に新しい取組を行っている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：生活文化（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いとう じゅんいち 伊藤 潤一 (36 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、平成 19 年に独学で書を始め、平成 20 年には初の個展を開催した。以後、神社・寺への作品奉納や国内外の展覧会への出展を続けるなど、日本文化の発信に尽力している。</p> <p>平成 24 年より、地元の小中学校で「書」をベースとした授業を行い、延べ 2000 人以上を指導したほか、平成 28 年度より文化庁の「芸術家派遣事業」を受託し、小学校で芸術的感覚育成の事業を担当している。また、障がい児童への指導を続けるなど、次世代育成に貢献している。</p> <p>さらに、公益財団法人伊賀市文化都市協会と連携した文化財を活用しての展覧会開催や三重県指定伝統工芸品である「深野紙」や「鈴鹿墨」の普及活動、「山車再生プロジェクト(松阪市)」への参加、地域活動に関わる団体への文字デザインや地元産商品のパッケージ・看板デザインの提供など地域との関わりを重視した活動を行っている。</p> <p>これらの活動が認められ、平成 30 年に東久邇宮文化褒賞、令和 2 年に日本デザイン書道大賞 優秀賞、令和 3 年に三銀ふるさと三重文化賞などを受賞した。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（現代アート）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かめやま 亀山トリエンナーレ <small>じっこういんかい</small> 実行委員会</p> <p>(代表：伊藤 <small>いとう</small> 峰子 <small>みねこ</small>)</p>	<p>亀山市</p>	<p>平成20年にアートフォーラム三重の会員有志10名が実験的に亀山市東町商店街の店舗やガレージを活用し、作品を展示したことが当団体の始まりである。平成26年に現在の「亀山トリエンナーレ」となり、「現代アートの新人の登竜門」、「国際交流の促進」という方針を掲げ、現在では海外作家も含め、公募による100名以上の作家が参加している。出品者の中には実行委員としても携わっている亀山市在住の若手作家もあり、若い世代の人たちが積極的に亀山トリエンナーレの事務局の支援を行うなど、次世代へのつながりも見られる。</p> <p>令和元年度に実施された亀山トリエンナーレ2020プレ企画では、亀山市と協働した亀山茶のパッケージのデザインに携わったほか、亀山市内の飲食店と協働した亀山茶を使用した新商品の開発を行うなど、現代美術のみにとどまらず、食文化と連携した文化芸術を創出した。</p> <p>さらに、展示会場として地域の商店街をはじめ、市指定文化財等を活用することで、商店街の活性化や市の魅力の発信に繋がっている。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：演劇・舞踊（フラメンコ舞踊）

名 前	住 所	受 賞 理 由
ささきのりこ 佐々木 典子	津市	<p>氏は、フラメンコの本場スペインで10年間学び、マドリードのタブラオ（フラメンコ専用の舞台）「ラス・カルボネーラス」など数多くの舞台に東洋人として初の招待出演を果たしたほか、ロンドンフェスティバル「ペーニャ・フラメンカ・デ・ロンドレス」に出演した際には好評を博し、フラメンコ誌に掲載されるなど、高い評価を得た。</p> <p>平成20年に帰国後は、津市の2か所に佐々木典子フラメンコスタジオを開講し、数多くの生徒を指導している。平成23年、24年にはスペイン村「フィエスタ・デ・フラメンココンテスト」に生徒4組が出場し、2年連続ボニータ賞を受賞したほか、ソリストとして活躍する生徒もいる。</p> <p>令和3年には佐々木典子フラメンコスタジオ記念公演「Fin de Curso2021」を開催し、好評を得た。</p> <p>また、津まつりをはじめとする多くの地域イベントや老人ホームの慰問などフラメンコ舞踊の魅力を広める活動を行っている。</p> <p>このような功績が認められ、令和4年には津市文化奨励賞を受賞した。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>しろしま まさこ 城島 正子</p> <p>(75 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、平成 12 年に写真同好会「写友わかば」に入会し、翌年には全日本写真連盟の個人会員として本格的に写真を始め、旧「上野市美術展」や「伊賀市美術展」、「みえ県展」においては、数多くの入賞、入選を果たした。平成 23 年には二科会写真部三重支部及び全日本写真連盟鈴鹿支部に入会し、良き指導者に恵まれたこともあり、「二科会写真部展」や「JPS展」等、各種コンテストの入賞、入選の常連となった。全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」では、最高賞である審査員特別賞を受賞した。</p> <p>また、「伊賀市美術展」の運営委員や審査員を複数回務め、写真文化の普及と発展に尽力している。</p> <p>さらに、所属する二科会写真部三重支部及び全日本写真連盟鈴鹿支部において、会員への技術指導を行っているほか、平成 27 年には日本写真講師協会認定フォトインストラクターの資格を取得し、写真教室並びに撮影会、撮影旅行での撮影指導と作品講評を行い、後進の育成に努めている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（絵画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おおにし きな 大西 佐奈 (40 歳)</p>	<p>大台町</p>	<p>氏は、フランス留学を経て、沖縄県立芸術大学及び大学院にて絵画を学んだ後、郷里に拠点を移し、ギャラリー等での個展開催のほか、国内の各種公募展への出品や海外のアートフェアへの参加を通して作品を発表し、画家としての活動の幅を広げている。</p> <p>令和2年には、次代を担う若手作家のための公募展である「シェル美術賞」に入選し、作品が高く評価された。</p> <p>また、三重県内や名古屋、東京のギャラリー等で個展を開催し、県内のみならず県外各地でも存在感を示している。</p> <p>さらに、アトリエのある大紀町において絵画教室を主宰しているほか、三重県立熊野古道センターや紀北町公民館の絵画講座の講師として後進の指導にも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はしもと ひでゆき 橋本 英幸</p> <p>(43 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、平成 26 年から各種コンテストや公募展への応募を開始し、「津市美術展覧会」や「松阪市美術展覧会」等において、入選、入賞を果たしてきた。令和元年度には全国誌であるアサヒカメラ誌の月例コンテストで年度賞を受賞。令和 2 年度には同じく全国誌であるフォトテクニックデジタル誌、日本カメラ誌、フォトコン誌の各月例コンテストにおいて年度賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、道の駅等での展覧会の開催や、公的機関や各種団体からの依頼によるポスターやパンフレット等の撮影協力のほか、松阪市行政チャンネル番組「スマホで上手に写真を撮ろう」に講師として出演するなど、写真文化の発展に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：文学分野（同人雑誌の発行）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>むぎはた よういち 麦畑 羊一 (本名：伊丹 健秀) (80 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、平成 28 年から現在まで、主宰者として同人雑誌「P.」の発行を隔月で続けている。編集、印刷、製本、発送を一手に担うだけでなく、同人を叱咤激励し、執筆に精励させ、アドバイスも欠かさない。</p> <p>同人雑誌「P.」は掲載料が非常に安価であり、会費も取らず、ジャンルも問わないため、若者から高齢者までの幅広い年齢層にとっての発表と研鑽の場となっている。執筆者の増加とジャンルの広がり、内容の充実ぶりから東海地方を始め、全国的にも注目される同人雑誌となっており、掲載作品が新聞等でも取り上げられている。</p> <p>令和 4 年には、精力的な同人雑誌の発行と文学を志す人々への貢献活動が高く評価され、斎藤緑雨文化賞を受賞した。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>やない ひでお 梁井 英雄</p> <p>(73 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、平成 26 年に全日本写真連盟三重県本部「かわの支部」に入会し、本格的に写真を始めた。得意分野はスナップ写真で、人間の喜怒哀楽をリアルに表現することを得意としている。</p> <p>各種コンテストに精力的に応募しており、「鈴鹿市美術展」では 7 回の入選、3 回の入賞、「みえ県展」では 6 回の入選を果たした。また、朝日新聞社・全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」では、最高賞の審査員特別賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>さらに、各種コンテストでの実績と支部への貢献が認められ、令和 2 年からは「かわの支部」支部長に就任した。令和 4 年からは全日本写真連盟「三重県本部」の委員に就任し、事業運営に携わるなど、写真文化の発展に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

第22回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

令和4年8月8日から10月31日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	6名	
文化功労賞	13名	
文化奨励賞	15名	
文化新人賞	4名	総数 38名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野											計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	メディア芸術	伝統芸能	生活文化	学術	伝統工芸	その他	
文化大賞		1										1
文化功労賞	1	2										3
文化奨励賞		1		1	1			1				4
文化新人賞	1	1			2							4
計	2	5		1	3			1				12

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞				1							1
文化功労賞				1			2				3
文化奨励賞			1	1	1		1				4
文化新人賞		1	1		2						4
計		1	2	3	3		3				12

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第22回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村憲司(児童文学)	勝美伊三次(日本舞踊) 保黒時男(植物生態学調査)	あの津っ子の会(児童文学) 伊勢管弦楽団(交響楽) 伊藤宏樹(吹奏楽) 落合花子(詩歌) 川端守(地域づくり活動)	新井明子(演劇) 津手づくり絵本の会(児童文学) 坪井智子(箏曲) 伴 剛一(作曲活動) 東川和子(川柳) 平田 環(俳句)
第2回	平成14年度	(該当者なし)	亀山絵本と童話の会(児童文学) 坪島土平(陶芸) 三重ヴォークスボーナ(合唱)	伊勢シンフォニックバンド (吹奏楽) 菅生三千代(箏曲) 羽場正一(演劇) 黛 元男(詩歌) 南川憲生(彫刻)	池田比早子(ひのきクラフト) 鎌田美津子(写真) ゴルジ隊(演劇) 阪野 優(マンボ研究) 田中 豊(演劇) 中森 勉(写真) 平賀節代(俳句) 森田茂治(詩歌)
第3回	平成15年度	稲垣克次(彫刻)	川北佐平治(伝承芸能) 中村武郎(ギター・マンドリン) 山口勲(俳句)	金子聡(環境科学研究) 北住淳(ピアノ演奏) 近藤英子(彫刻) 森一蔵(萬古焼) 山内玲子(箏曲)	石井烈(俳句) 佐々木経子(俳句) 東勝美(児童文学) Building Bridges (文化資産等の保護) 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN(津軽三味線) 三浦恭子(インド舞踊) 水野昌光(地域の映画館を 活用した市街地活性化)
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》(合唱)	岡村信也(吹奏楽) 土屋喜八郎(能楽) 中林長生(俳句)	笠井幹夫(オペラ) 木岡ふみ子(箏、三絃) 佐々木宏子(ピアノ演奏) 清水正明(郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介) 谷口智行(俳句)	阪本青悠(書) 高崎一郎(詩) 中山かほり(吹奏楽) 藤田智子(箏、十七絃等) 松田実靱(小説) 三重大学ダンス部(ダンスの創作)
第5回	平成17年度	野口巳織子(日本画)	関宿町並み保存会 (関宿の町並み保存) 田村美保子(大正琴) 間瀬 昇(評論、小説)	田村公男(洋画) 東海かおり(箏、三絃) 福山良子(俳句) 松嶋 節(小説) 山村楽女(日本舞踊)	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” (童話) 麻植慶治(雅楽) 奥山和子(俳句) 後藤千佳子(筆名;伍東ちか) (現代詩) 津村美香(フラワーデザイン) 人情集団An-Pon-Tan (バリアフリーミュージカル)
第6回	平成18年度	谷本光生(伊賀焼)	岡森 章(伊賀焼) 森 浩一(能楽・狂言)	川島雅樹 (声楽・オペラ・合唱) 水谷幸勉(工芸美術) 宮村典子(川柳) 村上しいこ(童話) 三重オペラ協会(オペラ)	佐藤千恵(俳句) みえ熊野学研究会 (地域資産研究)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第22回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田正和(俳句)	越知愛幸子(合唱) 中川忠峰(根付) 吉居清雄(堅塩作り)	中山かほり(吹奏楽) 西田誠(俳句) 秦昌弘(郷土作家の研究) 服部博之(和太鼓) 馬場浩子(声楽)	アモーレかめやま(大正琴) 梅山憲三(現代詩) 垣内美穂(詩・児童文学) 桐生智晃(吹奏楽) 葛原郁子(短歌) 現代邦楽奏団グループ竹友(邦楽) 比留間雅弥真天(邦楽)
第8回	平成20年度	小野雅生(洋画)	稲垣無得(書) 倉田しげる(俳句)	伊藤政美(俳句) 岩崎孝子(洋画) 津田親重(日本画) 野村幸廣(ミュージカル) 山本翠松(伝統漆工芸)	秋野信子(詩・小説) 岡本妙子(詩) 劇団員弁川(演劇) 福田容子(俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男(吹奏楽)	赤井 重規(能楽) 原 直矢(彫刻) 鍋島 泰(方言の研究)	橋本 輝久(俳句) 三重県吹奏楽連盟(吹奏楽) 田中 厚好(彫刻) 青木 久佳(短歌) 岸 武男(演劇)	山口 道子(版画) 前田 照子(俳句) やまぎり 萌(現代詩) 林 英一(多文化共生の研究) 長岡 むつみ(リコーダー指導) 中川 左和子(短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生(写真)	相賀 泰(神楽) 衣斐 弘行(評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平(合唱)	小河 柳女(川柳) 津奈乃会(邦楽) 矢田 新男(写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼(小説) 佐藤ゆかり(女性史の研究) 多気町劇団白つばき(演劇) 橋倉 久美子(川柳) 橋本 石火(俳句) 堀内 晶(地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎(地域文化の紹介と観光ボランティアガイド) 村山 砂由美(詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 禮子(マリンバ) 玉置 千代(児童文学) 野嶋 峰男(木漆工芸)	伊藤 清和(美術の振興) 神田 ひろみ(俳句・評論) 清崎 博(安乗の人形芝居) 山崎 龍芳(伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル(合奏等)	越知 ひとみ(音楽の普及) 小津 由実(俳句) 斎宮アカデミー(歴史・文化) 清水 潮(萬古焼) 中西 紀和(陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子(日本画、書道)	伊藤 政美(俳句) 角谷 英明(陶芸) 菅生 和光(吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃(吹奏楽) 坂尾 富司(写真) 中村 かおる(箏曲) 西田 真也(陶芸) 三重県陶芸協会(「焼きもの」の振興)	真山 隼人(浪曲) 志摩市俳句協会(俳句) 手塚 泰子(俳句) 西村 健二(郷土史研究) 堀川 孝子(詩) 村松 とし子(短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー交響楽団(交響楽)	羽場 正一(演劇) 羽根 功二(合唱) 森 悦彦(作詞・作曲)	小川 匪石(書) 紀の川良子と市民劇団(演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠(書) 達知 和子(短歌) 比留間 雅弥真天(箏・三弦)	岩田 典子(俳句) 服部 真紀子(陶芸) 廣 めぐみ(声楽)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第22回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華(書)	谷本 景(伊賀焼) 森 正(陶芸) 脇谷 実千子(児童文学)	尾崎 亥之生(俳句) 武村 豊徳(陶芸) 伴野 節子(箏・三絃) 吉川 光和 (競技かるたの読み手) 吉崎 柳歩(川柳)	伊藤 圭佑(津軽三味線) つげ みさお(児童文学) 西田 昂平(声楽) 和太鼓 凜(和太鼓)
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月(陶芸)	加藤 純一(詩吟) 福田 勝(能楽) 松山 好成(組紐)	印藤 幸恵(陶芸) 坂口 緑志(俳句) 田邊 三郎(写真) 中井 智弥(箏曲) 安田 隆亮(絵画)	牛場 寿子(写真) 大形 弥生(木工) 駒田 早代(津軽三味線) 野瀬 みつ子(写真) 平野 透(俳句)
第16回	平成28年度	錦 かよ子(作曲)	石井 いさお(俳句) 矢田 新男(写真)	梅山 憲三(現代詩) 岡本 千尋(俳句) 加藤 秀樹(陶芸) 憲旺会(尺八) 伴 剛一(作曲)	伊藤 潤一(書) 前田 祐英(木工) 森川 眞理子(パステル画) 森下 充子(俳句) 横田 千明(彫刻)
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」(合唱)	井上 博暁(俳句) 菊川 淑子(能) 桐生 智晃(吹奏楽)	牛場 和美(写真) 紺谷 猛(小説) 近藤 たみ(陶人形) 藤原 伸久(小説) 森 玲子(箏曲)	赤野 四羽(俳句) 岡島 千秋(俳句) 久保 恵子(詩・児童文学) 小林 美咲(声楽) 白木 千華(陶芸)
第18回	平成30年度	林 克次(陶芸)	多門 志風(水墨画) 恒岡 光興(伊賀焼) 西川 里寿(日本舞踊)	現代邦楽奏団「新しいぶき」 (邦楽) 谷本 雅一(石彫刻) 辻井 甫山(尺八) 戸田 真樹(文芸評論) 西尾 敬一(俳句)	岩田 優里愛(ヴァイオリン) 高藤 典子(詩・短歌・俳句) 竹内 洋司(尺八) 藤田 哲也(日本画) 森本 昭子(俳句)
第19回	令和元年度	大川 吉崇(郷土文化)	荒木 友梅(書道) 河俣 和子(合唱) 橋本 輝久(俳句)	遠藤 昭己(小説・詩) 女声合唱 Luce(合唱) 名張こども能楽囃子教室実行委員会 (能楽囃子) 平賀 節代(俳句) 村山 昌子(小説・童話)	岩名 泰岳(絵画) 小川 はつこ(散文) 川淵 皓平 (竹製ランプの制作・演出) 清水 ゆん(短歌) 橋本 莉(大正琴)
第20回	令和2年度	菅生 和光(吹奏楽・指揮)	兼重 直文 (ピアニスト・音楽指導者) 坂尾 富司(写真) 津女声合唱団(合唱)	加藤 訓峯(邦楽) (現:西尾 峯一) 中川 瑠雲(書道) 橋倉 久美子 (川柳・エッセイ・小説) 林田 さなえ(ガラス工芸) 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会 (松阪木綿)	加藤 ひろな(デザイン) 中村 栄宏(リコーダー) 百地 拓窓(書道)
第21回	令和3年度	川口 祐二 (地域伝統文化の保存啓発活動)	佐々木 洸舟(書道) 谷本 善聖(民謡・三味線) 養正コーラス(合唱)	稲垣 竜一(陶芸) 岡村 仲江(写真) 野瀬 みつ子(写真) 廣山 三千代 (美術工芸・染色) 前田 典子(俳句)	小林 純生 (作曲及び音楽イベントの実施) 佐藤 敬(建築) 村山 響(ピアノ) 山田 風雅(彫刻・立体造形)
第22回	令和4年度	紀平 昌伸 (手描き映画看板)	神田 ひろみ(俳句) 小牧 昭夫(陶芸) 津田 親重(日本画)	伊藤 潤一(書道) 亀山トリエンナーレ実行委員会 (現代アート) 佐々木 典子 (フラメンコ舞踊) 城島 正子(写真)	大西 佐奈(絵画) 橋本 英幸(写真) 麦畑 羊一(同人雑誌の発行) 梁井 英雄(写真)